

「恋人の聖地」 那須においで

那須連山の主峰茶臼岳の中腹にある眺望が見事な那須高原展望台（那須町湯本）。今年6月、県内で初めて「恋人の聖地」に選定された。22日には、ランドマーク（銘板）の除幕式をし、新たな観光資源として宣言する。那須地域はこれまで、那須御用邸のある「ロイヤルリゾート」のブランドイメージを発信してきた。今回の選定を機に若者の心をゲットし、新たな観光客の誘致に弾みをつける考えた。

県内初選定の展望台

ランドマーク除幕 22日

那須高原展望台は標高1048。九尾の狐伝説で知られる観光名所・殺生石から県道2・3号ほと上ったと



「恋人の聖地」に選ばれた那須高原展望台。眼下の景色を見ながら愛を告白してみたいか—那須町湯本



22日に除幕されるのは、「恋人の聖地」を示す高さ約1・2メートルのランドマーク。台の部分は地元の菅野石を使っている。そこに選定委員のひとりでファッションデザイナーの桂由美さんが書いた銘板（縦28センチ、横40センチ）と、「恋



チャペルで祝福を受けるカップル—那須町の那須高原セント・ミッシェル教会

ころにある。面積は約650平方メートル。1961年に県が整備し、その後、町に移管された。晴れた日は那須野が原の絶景が一望でき、夜景は町並みの明かりが「ピエロが踊っているように見える」と言われ神秘的。そんな雰囲気の中でプロポーズ。恋人たちにとって足を運びたいスポットだ。

人たちのメッセージが設置される。町観光商工課の職員が考えたというメッセージは「10年後、20年後に、絶景を眺めながら変わらぬ愛をお確かめください」と結んでいる。

官民一体で盛り上げ

聖地の選定を受けて同町は今年度、約357万円をかけてランドマークのほか、案内板などを備える。さらに来年

選定は、周辺の民間施設の意欲も高めている。那須御用邸近くで、チャペルを備えた「那須高原セント・ミッシェル教会」などを経営する鈴木（本社・那須塩原市）の鈴木健一郎社長も積極的だ。

1995年にオープンした同教会は英国の建物を再現し、いすやテーブルなど調度類は現地から取り寄せた。今年度は、写真撮影を含めて約650組の挙式予約がある。「（選定をきっかけに）那須全体がプロポーズの聖地としても名乗りを上げることが提言したい。教会でも、観光地やレストランでもいい。事前に連絡をもらったカップルに特典をサービスしたら一生の思い出になる」。11月には、官民によるプロジェクト

度を含めた2カ年では約3千万円をかけ、砂利の地面を菅野石を特殊加工した石畳にし、駐車場やさくなどを整備する予定。「夜景のピエロ」についても仕掛けを考案中だ。

高久勝町長は「選定を機会に、若い人たちにもさらに多く来てもらえるようにしたい」と期待を寄せる。

挙式の男女「一生の記念に」

生演奏のオルガンに合わせ女性歌手が歌う「アメージング・グレース」が流れる。

華やかなドレスの花嫁が、父親にエスコートされ、ゆっくりと登場。新郎の顔にステンドグラスから輝く光があった。少女たちが夢見る結婚式は、こんな風景なのかもしれない。

今回の選定に併せて、「恋人の聖地」の運営をサポートする「サテライト施設」に那須ハイランドパークなど3カ

の観覧車のゴンドラをカップル用のペアシートに改造する計画。来年2月のオープン予定だ。ただ、課題もある。関連するグッズ販売などはこれから。業種によって温度差もある。那須町商工会の薄井正明会長は「経済活性化のためにはいいことだ」としつつ、商工会としてはしばらく様子見の姿勢だという。

カップルは埼玉県飯能市の小野寺良治さん（26）と奈津美さん（26）。それぞれの出身地（宮城県と山梨県）の間で挙式の場所を決めたいと、インターネットで探し、自然豊かな那須の景色に魅せられた。約80人の出席者のうち、50人ほどが周辺のホテルなどに宿泊した。

「恋人の聖地」の選定については初めて知ったという。「一生の記念として雰囲気いいね」と喜んでいました。

「今後の展望は、（恋人の聖地選定で）元気の源をつくりたい。地元大学の女子学生らも巻き込んで、若い人の感覚を採り入れるのでもいい。観光業者の意識を変える必要がある」

「人とのつながりが薄くなっている中、観光地へ来るお客さんは、ヒューマンなものを求めているのではないのか。那須にはいろいろな観光資源がある。楽しみ方も多様。个性的な人も多く、結果すれば大きなパワーになる」

恋人の聖地

静岡市のNPO法人地域活性化支援センターが2006年4月から選定している企画。「少子化対策と地域の活

性化への貢献」をテーマにし、「観光地域の広域連携」を目的に掲げている。全国では六本木ヒルズ展望台、横浜ランドマークタワー、軽井沢（町）など103カ

所が選定されている。これとは別に民間施設などの「恋人の聖地サテライト」では小山市の商業施設「おやまゆうえんハーヴェストウオーク」も今年1月、選ばれた。

「元気の源つくりたい」

那須観光協会理事・鈴木和也さん

「那須の魅力は、御用邸があり、皇室と関係が深いというロイヤルリゾートとしてのイメージが重要。プライダル施設とレジャー施設との連携を進め、各施設を結んで周遊できる地域を目指したい」

「宿泊数が伸びているホテルもある。施設や企業間で情報交換をしたらいいのでは。また、近年おしゃべりなイメージを追いかけすぎる。昔からの那須の温泉の良さもアピールしたい」